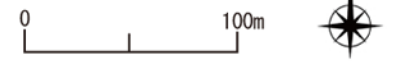


長浜市木之本町石道水害履歴マップ その①

(H28. 8. 30 長浜市木之本町石道会館で行った聞き取り調査に基づき作成)

— 地域特性 ・ 明治28年7月30日 ・ 明治29年9月7日 —

作成 立命館大学 防災まちづくり研究室 (長浜市 HP 地図サービス上に作成)



地域特性

- 〔水害の特徴〕**
- 過去に浸水被害が多発していたが、昭和37年に瀬谷川が改修工事されて以降、大きな水害は発生していない。
 - 高時川の水が溢れることはほとんどなかった。
- 〔Weak point〕**
- 大雨が降ると、五ノ坪あたりの瀬谷川護岸が度々削られた。
 - 大雨の際に、高時川の水位が高くなると、瀬谷川の水が高時川へと流れ出なくなるため、瀬谷川の水が溢れ出し、浸水被害が発生しやすくなっている。

- 〔避難〕**
- これまでに起こったどの水害でも集団避難が少なく、個別避難がほとんどであった。
 - 昭和以前の豪雨や台風の際には、当時一家に一棟所有していた蔵へ避難した。(蔵は丈夫で風や雨の音も聞こえにくかった)
- 〔水防活動〕**
- 現在の高時川頭首工(合同井堰)のあるあたりの高時川左岸は、増水時に崩れやすく、ここが決壊すると、石道の集落に被害が及ぶ。そのため、昔から、大雨の際に警戒し、木流しも行っていた。
 - 伊勢湾台風(S34)のころまで引き継がれていたが、その後行われなくなった。

(明治28年)
高時川が増水し、高岸から対岸の井明神山までの間がひとつの川ようになった。水害までこの場所に堤防はなかったが、水害後に住民の方々が土地を出し合い、自分たちの手で土を盛り、小さな土盛りの堤防を築いた。この堤防の部分は、現在でも私有地が多い。

(明治29年)
土地が低いので、瀬谷川があふれ床上浸水した。(建物の柱に、1m50cmほど浸水したことを示す印がかつてあった。)

(明治28年)
高時川の濁流で流れてきた石が、田にたくさんたまった。堆積していた土砂を、南の現在住宅が建っている所へ移動させた。そのため、現在、田や家屋の下にはたくさんの石ころが埋まっている。

高時小学校
(現在の一時避難所)

Hさんの小屋が流された。

石道会館 昭和51年建設
(現在の一時避難所)

(明治28年)
瀬谷川より流れてきた石や土砂が、田にたまった。現在の田の下にはたくさんの石が埋まっている。

(明治29年)
五ノ坪の周辺で、瀬谷川の護岸が削られ、浸水した。瀬谷川の水は土砂を含んでおり、五ノ坪より下流は濁流となった。瀬谷川の護岸を守るため、木流しを行っていた。

〔瀬谷川〕

- 瀬谷川の川幅は狭く、濁流が発生することがあった。
- 瀬谷川では、上流の山地から流れてくる大きな岩などが激しい勢いでぶつかり合い、火花を散らすこともあった。

明治28年

〔当日の様子〕

- 井明神付近に住む方々は、東の集落のお宅へ避難した。
- 瀬谷川を挟んだ集落間で行き来が出来なくなり、連絡がつかなくなった。そのため、あらかじめ川の上にロープを渡して連絡に使ったり、石を手紙でくるんでそれを投げるなどして、連絡を取った。
- 瀬谷川では、木が立ったまま流されてきた。

〔復旧〕

- 水害後に、砂に埋まった土地をならして、村興しの祭りを行った。
- 護岸を守るために木流しを行っていた。

高岸(2~3mの段差)があるため、これより東側は浸水しにくい。

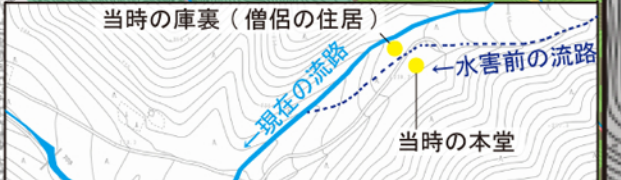
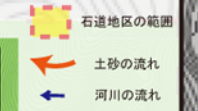
(明治28年)
高時川が増水により瀬谷川の水も排水されず、浸水範囲に砂が堆積した。現在では、その砂の上に田んぼが作られている。

(明治28年)
この水害を機に、嵩上げを行った。

平成16年に改修工事された。

<石道地区周辺の地形 / 明治29年水害時の石道寺の被害と移転>

- 高時川付近から、東側の山間に向けて坂になっている。
- 所々が窪地になっており、部分的に水が溜まりやすい。
- 石道地区では過去に集落の移動があった。明治以前は地区の東側の山間(旧石道寺周辺)に集落があったが、山裾から高時川沿いに移転した。高時川周辺は田または荒地であった。
- 昭和50年代に圃場整備が行われている。



(明治29年)
土砂が崩れ落ち、川の流れが変化した。当時、瀬谷川の左岸に位置していた石道寺は、本堂は流されずに済んだものの、庫裏が流され無人寺となった。大正3年に現在の位置に移転し、本堂を改築した。

